

専門演習Ⅳ 期末試験課題（再試験用）

個々に取り組んだゼミナル論文を教員が指摘した点を修正したうえで完成させたものを提出しなさい。

最終稿提出前に何度か教員とやりとりのうえ、修正をうけること。

形式：授業内で提示した「卒業研究の書き方の手引き」を参照のこと。参考文献リストについては、科学技術支援機構（JST）の「参考文献の役割と書き方」を参考にすること。

字数：7,500字以上（ただし、タイトルページ・本文・図表の説明を除く、参考文献リストは含む）

提出方法：Word（docあるいはdocx）ファイルをpdfファイルに変換すること。

締め切り：2/25（月）まで

評価観点：下記のルーブリックを参照のこと

評価項目	5 (10-9)	4 (8-7)	3 (6-5)	2 (4-3)	1 (2-1)
タイトル	簡潔で的を射た表題である	的を得た表題である	概ね適した表現を用いた表題である	学問的な表現・用語が使われていない表題である	研究内容に対して誤解を生む表現・用語を用いた表題である
仮説	仮説が適切に構成され、明確に提示されている	仮説が概ね適切に構成され、明確に提示されている	仮説がある程度適切に構成され、提示されている	仮説の構成がやや不適切であり、提示の方法も不明確である	仮説が提示されていない
用語	用語について厳密に定義し、使用している	用語について定義しているものの、使用に関して不適切である	用語について定義されていない	専門用語を用いていない	同じものを指す用語をいくつも使用している
論の展開	客観的、論理的に論が展開されている	概ね客観的、論理的に論が展開されている	ある程度客観的、論理的に論が展開されている	客観的、論理的ではない部分が大部分である	主観のみで論が構成されている
方法	他人が方法の記述を読むだけで、同じことが再現できるよう詳細かつ簡潔に記載されている	他人が方法の記述を読むだけで、同じことが再現できるよう詳細に記載されている	他人が方法の記述を読むだけで、同じことが再現できるようある程度記載されている	他人が方法の記述を読むだけでは不十分である	他人が方法の記述を読むことが不可能な記載の仕方である
結果	事実のみが記載されている	事実ではあるが、冗長なデータが記載されている	事実のみ記載されているものの、方法と一致しない	事実ではない記述が一部認められる	事実ではない箇所が多い
考察	研究目的や仮説に対して、結果に基づいた考察をしたうえで、先行研究と比較・参照して結論を導いている	研究目的や仮説に対して、結果に基づいた考察をし、結論を導いている	研究目的や仮説に対して、ある程度結果に基づいた考察をし、一応の結論を導いている	研究目的や仮説に対して、結果とは関係ない部分ばかり述べて結論を導いている	研究目的や仮説に対して、結果の解釈を捻じ曲げた結論を導いている
論文の体裁・書式	「卒論の手引き」に基づき、体裁・書式について教員から指摘を受けた全て修正して作成されている	「卒論の手引き」に基づき、体裁・書式について教員から指摘を受けた概ね修正して作成されている	「卒論の手引き」に基づいたものが作成されている	「卒論の手引き」に基づいたものとはいえず、不適切な箇所が見受けられる	「卒論の手引き」に基づいていない
	誤字脱字や文法上の誤りが一つもない	誤字脱字の誤りが全くなく、文法上の誤りが5か所以内である	誤字脱字、もしくは文法上の誤りが5か所以内である	誤字脱字の誤りがある	読むに堪えないほど誤りが多い
	規程量の文章量を満たし、過不足ない形で作成している	規程量の文章量を満たしているものの、冗長な文章が見受けられる	規程量の文章量にはやや足りないものの、内容は簡潔に作成されている	規程量の文章量を満たしておらず、内容も不足している	規程量の文章量の8割以下しかかけていない
論文内での引用方法、引用箇所と文献の対応、表記方法の全てが適切である	論文内での引用方法、引用箇所と文献の対応、表記方法のどれか一つに適切でない箇所がある	論文内での引用方法、引用箇所と文献の対応、表記方法のうち2つに適切でない箇所がある	論文内での引用方法、引用箇所と文献の対応、表記方法の多数に適切でない箇所がある	論文内での引用方法、引用箇所と文献の対応、表記方法のどれも適切に記載されていない	
# この項目にない部分については、減点にはしないが加点することはない。例：結果の一般化・研究限界・今後の展開・統計の適切さなど					